下野新聞　2022年（令和4年）10月5日（水曜日）

レスリング

福島（足大付高）初舞台5位

難敵に一矢

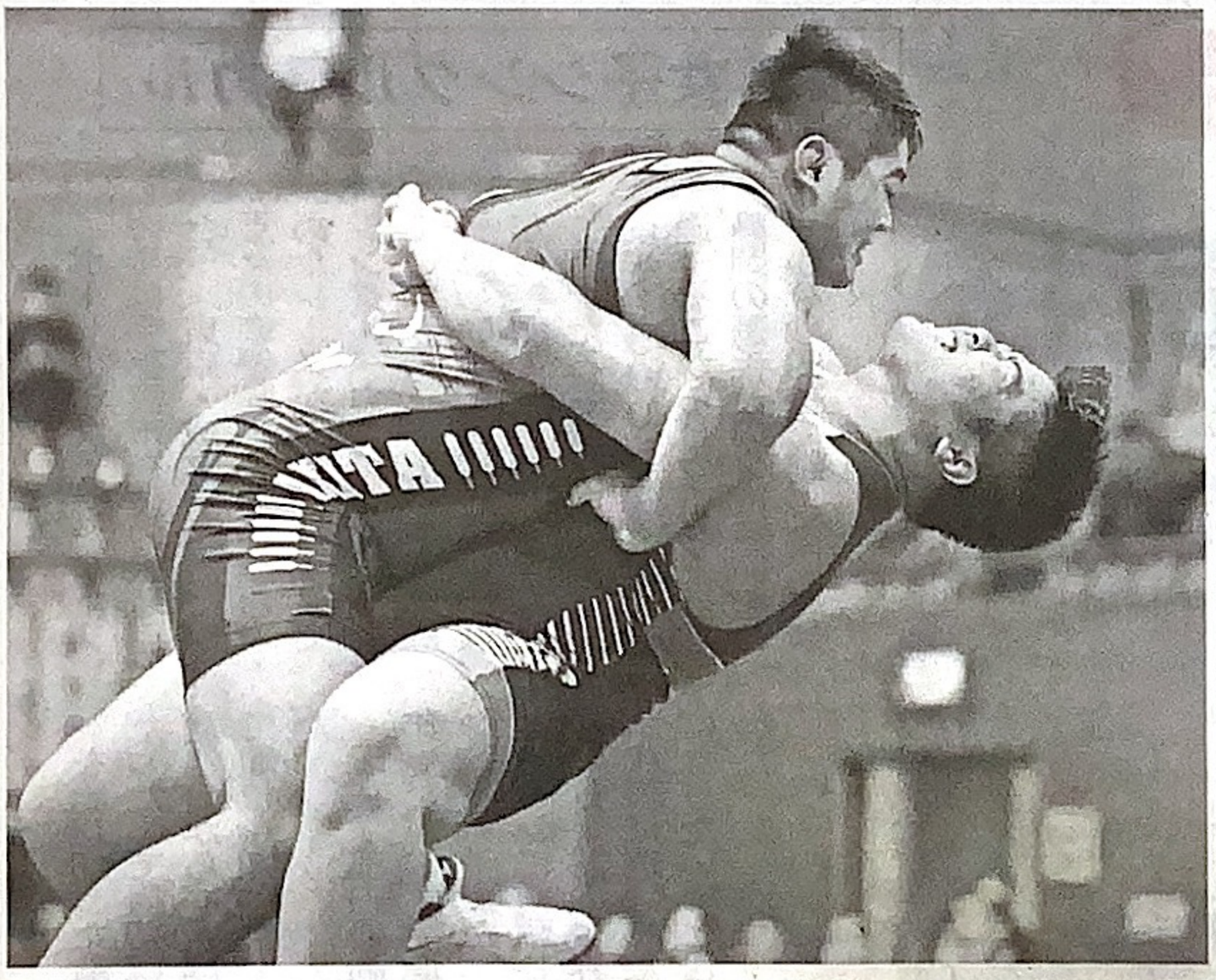
少年男子グレコローマン125キロ級

起死回生の投げ技だった。レスリング少年男子グレコローマンスタイル125キロ級準々決勝。福島煌天（足利大付高）が、最終盤に勝負の一手を打った。

今夏の全国高校生グレコ選手権4強の難敵に残り1分近くまで0－2とリードされた。ただ積極的に圧力をかけ続けたことで相手の防御が一瞬、緩む。「1回（の好機）に懸けていた」と放った豪快な「そり投げ」で同点に追い付いた。

だが体力は既に限界で、そこから相手の体を返しきれず上に乗られて決勝点を献上。あと一歩で白星を逃し「とても悔しい」と痛恨の表情だ。

一方で初の国体で5位入賞。本職ではないグレコで結果を出し自信も得た。「グレコでもフリーでも1位を狙っていきたい」。1年生の野望が膨らむ舞台だった。（伊藤慧）



レスリング少年男子レコローマンスタイル125キロ級準々決勝　足大付の福島（下）が投げ技を放つ＝足利市のFUKAI SQUARE GARDEN足利

レスリング少年男子・半田智（足利大付高。グレコローマンスタイル55キロ級で5位入賞）「全国の舞台で初めて表彰台に立ててうれしい。投げ技やグラウンドの防御を強化したことが生きた」